熊本地震で寸断された阿蘇へのアクセス
ＪＲ、国道の復旧でどんどん便利に

「赤橋が落ちたってよ」ー。2016年4月の熊本地震。最大震度７の激震に２度も見舞われた衝撃は忘れられない。県外の方には傷ついた熊本城天守閣の映像などが記憶に残っておられるだろうが、阿蘇地方へのアクセスルートも大きな被害を受けた。赤橋とは本震（16日午前1時25分）で落下した阿蘇大橋の通称。熊本市方面から阿蘇に向かう国道57号と南阿蘇村方面への分岐点にかかる大きな赤い鉄橋は、まさに阿蘇への玄関口。仕事でドライブでデートで、阿蘇を訪れる県民にとって慣れ親しんだランドマークだった。

被害を受けたのは赤橋だけではない。周辺で発生した土砂崩れは、国道57号もＪＲ豊肥線も押し流した。世界最大級のカルデラ地形の雄大さと活火山の火口が間近で見られる一大観光地への道は極端に不便になり、基幹産業の観光業は沈んだ。

地震から4年を経た今年、その観光ルートが次々と復活を遂げる。ＪＲ豊肥線は不通区間27・3㌔のうち10㌔で新たにレールを敷く難工事を終え、8月8日に全線開通。外輪山中腹の急斜面を列車がジグザグに進む「スイッチバック」も復旧した。国道57号は崩落した立野地区を北側に大回りするルートと被災現場を通るルート、いずれも10月3日に開通する予定だ。

大動脈復活を「阿蘇再興のきっかけに」との期待は大きい。豊肥線開通時には阿蘇地域の各駅には多くの住民が久しぶりの列車を出迎えた。「踏切の音が朝から鳴って、豊肥線がきょうから復活するんだと胸が弾んだ」との投書も地元ラジオで流れた。

今年はコロナ禍に加え、7月には県南を中心に甚大な豪雨災害も受けた。熊本は苦しみにあえいでいる。その中で地震の傷跡が癒えてくるニュースは、県民にとって一歩ずつでも「明日」を意識させる。「負けんバイ」の気持ちを共に抱き、県民を支えていくことが地元紙の使命なのはいうまでもない。

熊本日日新聞社　生活情報部長　　陣立昌之

約4年4カ月ぶりにＪＲ豊肥線が全線再開し、復旧区間を走る上りの一番列車。右奥は工事中の新阿蘇大橋
＝8月8日午前5時50分ごろ、南阿蘇村立野

多くの人たちの出迎えを受け、ＪＲ阿蘇駅に到着する「あそぼーい！」
＝8月8日午前10時30分ごろ、阿蘇市